

財団法人 日本サッカー協会

平成 22 年度 第 1 回理事会

協議事項

1. U-12 年代ゲーム環境の改革の件
<p>「2005 年宣言の具現化！」の施策の一環として、育成年代における年間通した基軸となるリーグ戦実施が 2009 年 10 月の理事会で承認された。</p> <p>この年代の具体的な変更案を、大会部会及び各種研修会等で意見交換、協議及び検討を行った結果、以下の通り大会を整備したい。</p> <p><少人数制の導入></p> <p>変更前 : 制限なし (大会毎に大会規程で定める。)</p> <p>変更後 : <u>2011 年度から J F A 主催試合を 8 人制以下少人数制に変更。</u></p> <p>変更理由: 「個の育成」 (この年代で必要な技術等の習得) を踏まえたゲーム環境を提供するため。ペナルティーエリア内での攻防や試合中におけるボールタッチの多さ、ゴールまでの攻守機会が増える <u>8 人制以下少人数制</u>を適用したい。</p>
2. J F A アンバサダー制度廃止の件
<p>2003 年度からスタートした J F A アンバサダー制度を廃止したい。</p> <p>ただし、元選手等の派遣については、こころのプロジェクト推進室が窓口となり行う。その際、「J F A アンバサダー」という名称は使用しない。</p> <p>【廃止の理由】</p> <p>① J F A アンバサダーの役割が、当初の「現役引退直後の日本代表選手を身近に感じることで、選手のモチベーション向上を図る」から「多くの人に元プロサッカー選手と一緒にサッカーの楽しさを感じてもらおう」という意味合いに変化してきたため、人数を絞って固定する意味が薄れてきた。</p> <p>② JFA アンバサダーは他の職が主となっているため、スケジュールが合わないことが多く、活動実績に大きなバラつき (0 回~13 回) が生じている。ベースの人数を増やすほうがいいのだが、現行の制度では増やしにくい。</p> <p>③ こころのプロジェクトがスタートし、夢先生としての活動も、部分的には J F A アンバサダーの活動と似通っている部分がある。また、こころのプロジェクトにも夢の教室以外での選手等の派遣依頼が多く寄せられている。</p> <p>④ 制度によって派遣料等が固定されているため、地域の財政事情によってフレキシブルに対応できない。</p> <p>【変更後の期待される効果】</p> <p>① 394 名の夢先生がベースとなり、より幅広い派遣が可能となる。</p> <p>② 地域の財政事情によって派遣料等の調整が可能となり、いままで派遣できなかった</p>

イベントにも派遣できるようになる。

③ こころのプロジェクトの活動がより幅広いものとなる。

【今後の元選手等の派遣に関する窓口】

広報部からこころのプロジェクト推進室に移管する。

3. MATCH FLAG PROJECT 2010 SOUTH AFRICA の件

(協議) 資料No. 1

1. 名称 MATCH FLAG PROJECT 2010 SOUTH AFRICA
2. 目的 FIFA ワールドカップ 2010 南アフリカ大会に向けてのプロモーションとして、昨年から実施してきた、サッカーとアートを融合したマッチフラッグの制作を全国規模で展開し、サッカーファンだけでなく、より幅広い層に対しワールドカップへの関心を高めていくとともに、サッカーを通じた新たな楽しみを提供する。
3. 主催 財団法人日本サッカー協会 MATCH FLAG PROJECT
4. 期間 2010 年 4 月～7 月
5. 内容 (予定)
 - ① マッチフラッグの制作

ワールドカップで日本が対戦するカメルーン・オランダ・デンマークとのマッチフラッグを JFA 広報委員でもある日比野克彦氏が指導し、ワークショップ形式で各地において参加者を集め制作する。フラッグの数やサイズは各地の参加人数や会場の大きさに合わせて対応する。フラッグの材料は基本的に参加者が古着などを持ち寄り、より自分たちの思い入れのフラッグに仕上げていく。また日比野氏デザインによるオリジナル T シャツを販売し、収益を本活動の費用に充てる。 ※別紙資料参照
 - ② ネット上での展開

各地で展開の様子をインターネット上で見られるようにホームページを作成し、より多くの人に活動を広めていき、開催していない地域の人々にもマッチフラッグの活動が波及していき、多くの人々が参加できる機会を設ける。
 - ③ マッチフラッグを南アフリカへ

日比野氏が各地で制作されたマッチフラッグを南アフリカに持っていき、日本代表のベースキャンプがあるジョージのメディアセンターに飾り、日本代表チームにその想いを届ける。これらの現地の様子をホームページで日本のサポーターに届けていく。
 - ④ 南アフリカでのサポーターとの交流

グループリーグの試合が行われる 3 つの街のサポーターが宿泊するホテルで、試合に向けて応援に訪れている両国のサポーターと互いの健闘を称えながら、ひとつのフラッグを作るワークショップを行う。
 - ⑤ 大会後の展開

一連の活動の報告記録集を作成し、3 枚のビッグマッチフラッグと共に、2010 年ワールドカップの記憶として全国の文化施設やサッカー競技場に展示、報告

会などを開き、文化としてのサッカーの普及活動に活用する。

6. スケジュール (予定)

□日本国内でのワークショップ

- 4月10・11日 太宰府市 (太宰府天満宮)
- 4月18日 新潟市 (新潟市新津美術館)
- 4月26日 那覇市 (サンエイ)
- 4月28日 鹿児島市 (マルヤガーデンズ)
- 4月29日 熊本市 (上通・下通・新市街商店街等)
- 5月5日～ 横浜市 (旧若葉台西中学校)
- 5月14日 金沢市 (KAPO)
- 5月15日 岐阜市 (岐阜県美術館)
- 5月16日 水戸市 (四季の原)
- 5月22日 渋谷区 (SAMURAI BLUE CAFE)
- 5月30日 福岡市 (調整中)
- 5月31日 太宰府市 (九州国立博物館)

□南アフリカでのワークショップ

- 6月13日 (日) マッチフラッグワークショップ in ブルームフォンテーヌのホテル
- 6月18日 (金) マッチフラッグワークショップ in ダーバンのホテル
- 6月23日 (水) マッチフラッグワークショップ in ルステンブルグのホテル

※メディアセンター (ジョージ市) にてビッグマッチフラッグを展示する。

□ワールドカップ終了後

- 7月～ 日本国内のサッカースタジアム・ミュージアム・文化施設・商店街などでビッグマッチフラッグを展示し、文化としてのサッカーの普及活動を行う。

4. 「アジア代表日本2010」協力名義使用の件

(協議) 資料No.2①②

2006年のFIFAワールドカップドイツ大会前に本企画と同様のイベントが開催され、JFAは「共催」という形で協力をしたが、今回は基本規程の定義に合わせ「協力」名義で本イベントに参画したい。

- 名称 : 「アジア代表日本2010」
- 開催時期 : 2010年4月10日～7月11日
- 主催 : 「アジア代表日本2010」実行委員会
- 共催 : 九州国立博物館、福岡文化財団、西日本新聞社、太宰府天満宮
- 協力 : (財)日本サッカー協会 (予定)
- 協賛・後援 : (調整中)

<企画概要>

世界で一番のコミュニケーションツールであるサッカーの世界大会「2010 FIFAワールドカップ南アフリカ大会」開催期に合わせ、広報委員でもある日比野克彦氏の総

合企画演出のもと、日本とその他のアジアの代表国の文化を紹介し、アジアの国々がひとつになって世界に発信する標の制作を、一般市民参加型ワークショップを九州国立博物館で開催。アジアの代表としての日本という認識を持ち、人と人との関わり合いが文化を築き上げていくことを参加者全員で体感する。

<催時概要>

(1) MATCH FLAG PROJECT 2010 SOUTH AFRICA

開催期間：4月10日（土）～6月10日（木）

開催場所：太宰府天満宮境内、太宰府市内、福岡市各所

内容：SAMURAI BLUE がグループリーグで対戦する国のマッチフラッグを制作

(2) 日本サッカーミュージアム所蔵展

開催期間：5月30日（日）～6月18日（金）

開催場所：九州国立博物館

内容：日本サッカーミュージアム所蔵のお宝を展示し、W杯の気運を盛り上げる

(3) ASIAN HOUSE の開設

開催期間：4月10日（土）～7月11日（日）

開催場所：太宰府天満宮参道沿い

内容：「アジア代表日本2010」の情報集・発信基地であり、サポーターたちが集える憩いのスペース。フラッグの作成、お宝の展示をはじめ、日本代表を応援するメッセージをフラッグに記入するコーナー等を設置。

(4) HIBINO CUP 2010 FUKUOKA

開催期間：5月30日（日）

開催場所：福岡市役所前広場

内容：段ボールやパッキンでゴール、ボールを作成し、サッカーの試合をする。

(5) トークショー

開催期間：4月10日（土）～6月11日（金）の間で開催

内容：日比野氏とJリーグ選手やサッカー関係者、著名人とのトークショー

(6) BLUE FLAG

開催期間：4月中旬～7月11日（日）

開催場所：九州国立博物館、太宰府天満宮、参道、太宰府市内、福岡市内各所 等

内容：天満宮境内、参道、太宰府市内各所、福岡市内繁華街（天神地区、博多駅付近）の目立つ箇所に、「SAMURAI BLUE」の旗を掲げる。多くの方の目に触れていただくことで、サッカー日本代表を地域が一体となって応援する気運を高め盛り上げる。

<展示概要>

(1) 「MATCH FLAG PROJECT 2010 SOUTH AFRICA」で制作された作品

(2) 日本サッカーミュージアム所蔵のお宝品

5. 専門委員・部会員 辞任の件
<p>田川 貴浩 氏（たがわ たかひろ）より、規律・フェアプレー委員会委員及び総務委員会法務部会部会員辞任の申し出があり、これを受理したい。</p>
6. レディース・エイト（40歳以上）オープン大会競技方法変更の件
<p>（協議）資料No.3</p> <p>2010年度第22回全国レディースサッカー大会<レディース・エイト（40歳以上）オープン大会>の競技方法を別紙の通り変更したい。</p> <p>大会競技方法変更の理由</p> <p>2008年度大会より、参加選手資格を45歳以上から40歳以上に広げ、参加チーム数を16から24へ増枠し、1チームあたりの試合数を減らしグループリーグ戦のみの競技方法にて最近2回の大会を実施した。</p> <p>その結果、旅費及び滞在費を参加者が自己負担する大会であることもあり、権威あるJFAの全国大会にふさわしいチャンピオンシップをより多くの試合数で競い合う従来の競技方法を望む声があがっていた。</p> <p>本大会の主管協会である(財)静岡県サッカー協会の協力により、2010年度から従来のハーフコート2ピッチ利用から4ピッチ利用が可能となった。これを受け、女性シニアサッカーの一層の普及を支援することを目的とし、上記の競技方法の変更を行うこととしたい。</p> <p>なお本件は、競技会委員会女子大会部会及び女子委員会で承認済みである。</p> <p>2010年度第22回全国レディースサッカー大会 <レディース・エイト（40歳以上）オープン大会> 主 催： <u>(財)日本サッカー協会</u> 主 管： (財)静岡県サッカー協会 期 間： 2010年11月21日（日）～23日（火・祝）</p>
7. JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)の件
<p>1. 公認申請者： (社)奈良県サッカー協会 施 設 名： 奈良県フットボールセンター（奈良県/磯城郡） 施設所有者： (社)奈良県サッカー協会 会長 奥野信亮 公認期間： 2010年4月7日～2013年4月6日 公認番号： 第101号</p> <p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ハイブリッドターフ(XP-62) /SRIハイブリッド(株)は製品検査(ラボテスト)を完了し、JFAロングパイル人工芝基準を満たしている。 ◆公認規程に基づき2回の検査(フィールドテスト)を実施し、JFAロングパイル人工芝基準を満たしている。

2. 公認申請者：三鷹市
 施設名：三鷹市大沢総合グラウンドサッカー兼ラグビー場（東京都/三鷹市）
 施設所有者：三鷹市長 清原慶子
 公認期間：2010年4月7日～2013年4月6日
 公認番号：第102号

<特記事項>

- ◆ドリームターフ(MXpro2065) /積水樹脂(株)は製品検査(ラボテスト)を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。
- ◆公認規程に基づき2回の検査(フィールドテスト)を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。

8. プレジデント・ミッション(PHQ) 関連事項

I. 2010年度「JFAメンバーシップ制度基本還元金」について

1. 基本還元金 一覧表
 (協議) 資料No.4
2. 組織基盤(法人格・常勤事務局体制・事務局) 一覧表
 (協議) 資料No.5

II. 2010年度支援制度対象協会について

M7. フットサルの普及推進【2010年度支援制度(フットサル)】

佐賀県協会より申請された内容を再度検討した結果、支援対象となることが確認できたため、追加支援を行うこととしたい。

申請案件：佐賀県自治体対抗フットサル大会・ジュニアフットサル大会

補助金額：300,000円

1. 各種支援制度 補助金一覧
 (協議) 資料No.6
2. M7:フットサルの普及推進【2010年度支援制度(フットサル)】
 (協議) 資料No.7